睦月

〔むつき〕令和６年１月

新しい年を一家の人々で仲よく迎える月という意味で、睦には「むつみ」すなわち「なかよく親しみあう」の意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

神道は生きる事ばかりにて宜敷と存じ奉り候、何もかも時々刻々に物を生かし候所こそ天照大神の御道と存じ奉り候

～黒住宗忠書翰集～

今月のことば

神道は生きる事ばかりにて宜敷と存じ奉り候、
何もかも時々刻々に物を生かし候所こそ
天照大神の御道と存じ奉り候

―黒住宗忠書翰集―

神道の産霊の信仰を身に体し、生成化育の神の力を信じて生き抜いた模範の一つを、ここに見出すことが出来る。

神の産霊の力とは神は全ての物を生み、生かし育て、伸ばすお力の持ち主であられることを信じて、その御心を頂いている私共としては、この神の御心の通りに生き抜くべきである。人間にも全ての物を生かす力が与えられているとして、人を傷つけ隠し入れるのではなく、反対にその人の持てる力を生かし、伸ばして上げるべきである。そうすることが、やがて神の御心に添うことになり、神の御心の隋に生きていることになる。

この極致がやがてこの文章にある「神道は生きる事ばかりにして宜敷と存じ奉り候」である。「時々刻々」とは「僅かの間でも」の意味で、「物を生かし候所こそ天照大神の御道と存じ奉り候」となる。天照大神の御心が、生成化育の実行、実現にあることを、そのまま身に体したものの所信の一節である。

（神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

御節　おせち料理は神様に供える御節供

「おせち」は、もともとは季節の変わり目の節供（節句）に、年神様に供えるための「お節」料理でした。なかでも正月がもっとも重要な節供という事から、正月料理に限定していうようになりました。

「おせち」は年神様に供えるための供物料理であるとともに、家族の繁栄を願う縁起ものの家庭料理でもあります。

鏡開　一月十一日　お供え餅で開運

正月の間お供えしていた鏡餅をおさげしておしるこにして食べる行事です。鏡餅は刃物を使わないのがしきたりで、手や木槌で割るため切ると言わずに運を「開く」という意味をこめて鏡開きと言います。

Q、お参りの作法を教えてください

鳥居からくぐりますがこのとき、軽く一礼します。参道は中央を歩かないようにしましょう。道の真ん中は、神様の通り道だからです。

境内に入ったら手水舎で清めをします。右手に柄杓を取って清水に汲んで左手にかけ清めます。次に柄杓を持ち替えて右手にもかけます。そして再び持ち替えて、左の手のひらに水を受けて、口をすすぎます。最後にもう一度左手で水を流します。

拝殿の前に進み軽く一礼してから、賽銭を入れ、鈴があるなら鈴を鳴らして、「二拝二拍手一拝」の作法でお参りをします。この時正式には、礼は九十度に体を折り、拍手は両手を胸の高さに合わせ、右手を少し引いてから、二度拍手を打ちます。右手を戻して両手を合わせ、ここで祈願をします。最後にもう一度九十度の礼をして、軽く会釈をしてから下がります。

尚、神社によっては、一社の故実により異なった作法をおこなっているところもあり、伊勢の神宮の神職がおこなう「八度拝八開手」や出雲大社の「二拝四拍手一拝」などがあります。

孝行恩愛（こうこうおんあい）

子が親を敬い、慈しみつくすこと。親にかぎらず、あるものを慈しみ尽くすこと。

令和６年 2024年 1月

日	月	火	水	木	金	土
	1 赤口 ●元日 歳旦祭 一粒万倍日 ね	2 先勝 皇居一般参賀 うし	3 友引 元始祭 三りんぼう とら	4 先負 う	5 仏滅 たつ	6 大安 小寒 み
7 赤口 昭和天皇祭 七草 三りんぼう うま	8 先勝 ●成人の日 ひつじ	9 友引 さる	10 先負 とり	11 赤口 鏡開き いぬ	12 先勝 る	13 友引 一粒万倍日 ね
14 先負 うし	15 仏滅 小正月 とら	16 大安 一粒万倍日 う	17 赤口 たつ	18 先勝 土用 み	19 友引 三りんぼう うま	20 先負 大寒 ひつじ
21 仏滅 さる	22 大安 とり	23 赤口 いぬ	24 先勝 る	25 友引 一粒万倍日 ね	26 先負 うし	27 仏滅 とら
28 大安 一粒万倍日 う	29 赤口 たつ	30 先勝 み	31 友引 三りんぼう うま			

《１日　元日》
年のはじめを祝う日です。

《８日　成人の日》
大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝い励ます日です。

二十四節気

【小寒　しょうかん】…六日
すでに本格的な冬の季節で、寒風と降雪に悩まされます。

【大寒　だいかん】…二十日
ますます極寒の辛苦にさいなまれる季節ですが、春はもうすぐ間近にせまっています。

六曜・選日

《六曜》
【先勝】…諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【友引】…朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【先負】…諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】…万事凶、患えば長びくおそれあり
【大安】…何事をするのにも吉の日、大吉日
【赤口】…諸事油断すべからず、正午のみ吉
《選日の吉凶》
【三りんぼう】…三隣亡日、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】…出資・投資・購入、新規事業開始婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《1月》

大寒	小寒
初候・芹乃栄（せりすなわちさかう）	初候・款冬華（かんとうはなさく）
次候・水泉動（すいせんうごく）	次候・水沢腹堅（さわみずこおりつめる）
末候・雉始雊（きじはじめてなく）	末候・鶏始乳（にわとりはじめてにゅうす）
	二ワトリが卵を産み始める

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに3つの候に細分し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

国旗「日の丸」をかかげましょう

国旗「日の丸」は朝日（昇る太陽）を象徴し、円満を意味しています。稲作を中心に生活してきた私たち祖先は、太陽の恵みに感謝してきました。また古来、国号を「日の本」「大和」としてきたことにも深い関係があります。さらに「日の丸」の赤は、明るさや情熱、勢い、誠を、白は清らかさや純粋、潔白を表していると言われます。これは清明心を尊んだ日本人の精神性とも合致します。まさに、日本国の国柄と日本人の心を、そのまま形に表現した国旗は「日の丸」を除いて他にないでしょう。

「白地に赤く　日の丸染めて
　ああ美しい　日本の旗は」

この歌は明治から今日まで唱歌として、小学校で教えられています。この歌に歌われているように「日の丸」はシンプルで美しい旗です。国民こぞって祝い、感謝し、または記念する「国民の祝日」には、国旗を掲げましょう。

安産祈願　１月の戌（いぬ）の日

１１日（金）
２３日（火）

＊戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

祝祭日には国旗を掲げましょう